

少年の主張審査会より

6月7日(日)に少年の主張審査会が行われました。各学校の代表である子どもたちの主張を108人の参加者に聞いていただきました。今回は、中学生の部で最優秀賞に輝いた、安福優月さんの主張「結果がすべてなのか」から人権との関わりについて考えたいと思います。

中学生の部 最優秀賞

「結果がすべてなのか」

高田中学校 3年 安福 優月
やすふく ゆづき

(略)

私の趣味は、絵を描くことです。小さな頃から続けてきたので、夢中になって絵を描いています。家族もそんな私の気持ちを否定せず、応援してくれました。そのおかげで、好きなことを好きなまま続けられたのだと思います。成長するにつれて、「もっとうまくになりたい」と思うようになり、リアルな人物画に挑戦しました。しかし、自分の技術不足を感じ、自分の理想と現実との距離に悩むことは多くなりました。思うように描けず、気分が乗らなくなることもありました。そんな時、私はマス目を使って描く方法に出会いました。モデルの写真と用紙の両方に線

を引いてマス目を作り、一マスずつ丁寧に描いていくという方法です。単純そうに見えて、時間がかかる大変な作業ですが、少しずつ絵が完成していく達成感や喜びがありました。この経験から私は、「完成は一度に現れるものではなく、小さな積み重ね、努力によって出来上がるものなのだ」と実感しました。

また、私の家族は完成させた絵の状態だけでなく、その過程にも目を向けてくれます。

(略)

「途中の過程」をふまえて「結果」を見てもらえることで、続けてきて良かったな、と思えました。

(略)

今の社会は、結果が重要視される場面が多いと思います。例えば、テスト勉強です。どれだけ勉強に時間を費やしたとしても、点数が伸びなければ「できていない」と評価されることがあると思います。結果までの過程で、どれだけ失敗を積み重ねただけ努力したのかは、まわりの人には見えにくいので、誰かの上手いっている姿や良い姿だけが印象に残ります。その結果、私たちは誰かの「完成」と自分の「途中の過程」を比べて自信を失うのです。

もちろん結果は大切です。努力した結果がその結果を生み出します。しかし、その結果だけ

で自分を決めつけてしまうのは良くないと思います。社会の中で結果は大切な判断材料となりますが、例えばその結果が理想のものでなくても、それまで積み重ねてきた努力には、確実に価値があります。努力したという途中の事実が大切なのです。

だから私は、「途中を認める考え方」が必要だと感じます。小さな努力や、まだ完成とはほど遠い結果にも価値がある、と認めることです。そうすれば、人は地道に自分の理想に近づけると思います。

そのために、私は自分自身を見つめてみようと思います。結果だけで人を判断するのではなく、その人が積み重ねた、大切な努力や過程に目を向けたいです。そして、それを言葉にして伝えられる人になりたいです。

このような積み重ねが、人が粘り強く努力し続けられ、互いに支えあえる環境につながっているのではないのでしょうか。例えば失敗しても、結果が出なくても、頑張った自分に気づき、認めることができれば、少しでも自信につながると思います。そして、その自信や経験が新たな挑戦へつながることで、自分の理想である「完成」に少しずつ近づくと感じます。一枚の絵のマス目のように、未来は小さな努力から成り立ちます。

皆さんは、自分の「途中の過程」を大切にできていますか。そして、誰かの「途中の過程」を見落としていませんか。

目を向け、知ろうとすること

私は安福さんの主張を聞きながら、人を大切にすることも同じではないかと感じました。私たちはその人の姿や言葉、行動など目に見える部分からその人を判断してしまいがちです。もちろん、目に見える部分もその人を理解するための大切な手がかりです。しかし、その人にも歩んできた道のりがあり、悩みや苦労、努力や願いがあります。それらは目に見えるものではありません。だからこそ、その人自身を大切にし、理解しようとするときには、目に見える部分だけでなく、その背景にも思いを寄せ、知ろうとすることが大切なのだと思います。

養老町では、人権施策推進指針の基本理念として「すべての人が心豊かに暮らせる町をめざして」を掲げています。「どうしてそのような考えになったのだろう」「どのような思いを抱いているのだろうか」と想像し、知ろうとすることは、その人を結果や印象だけで判断せず、一人のかけがえない存在として尊重することにつながります。

理想の社会は一度に完成する

ものではありません。小さなマス目をひとつずつ埋めることで1枚の絵が完成するように、人権が尊重される社会もまた、一人ひとりの小さな行動の積み重ねによって形づくられていきます。相手を理解しようとする、思いやりのある言葉をかけようとする、誰かの努力や思いに気付こうとすること。その一つ一つが「すべての人が心豊かに暮らせる町」への一歩になるのだと思います。

安福さんの主張は、結果だけでは見えない努力や成長に目を向けることの大切さについて教えてくれました。そして同時に、私たちに「相手をどれだけ理解しようとしているだろうか」と問いかけてくれているようにも感じます。

目に見える結果だけでなく、その人が歩んできた「途中の過程」を見ようとする、知ろうとすること。それが一人ひとりを大切にする第一歩なのではないでしょうか。皆さんは、自分の周りにいる人の「途中の過程」にも目を向けることができますか。